

# 港湾の軍事基地利用反対

[STOP]

[No]

[STOP]



## 「日米共同総合実働演習キーン・ソード (KS25) に抗議する」集会

10月28日(月)12時30分より那覇新港埠頭Fバースにて、「民間港の軍事利用に反対する抗議集会」が沖縄地本港湾部会の組合員、地本執行役員の総勢480名余りで開催された。この集会には全国港湾の鈴木誠一中央執行副委員長(全港湾中央執行委員長)も駆けつけた。

また同時刻には石垣港でも同集会が諸見沖縄地本書記長を先頭に開催され、総勢40名余りの組合員が命を守る声をあげた。

この集会は防衛省から「災害が発生したときに石垣島へ安定的に燃料を供給するための配管の接続検証」との協力依頼があったものが、蓋を開けると、「日米共同総合実働演習キーン・ソード」の訓練の一環、すなわち軍事利用ということが分かり、全港湾、全国港湾がともに掲げる「港の兵站基地、港の軍事利用反対」方針をもとに、沖縄の仲間が団結し、声を上げた集会であった。

当初、この集会は早朝から時間内に食い込む集会が予定されていたが、沖縄港運協会と組合との間で、「この問題の重要性、仲間の命を守る、港の兵站基地化」など交渉を重ね、共通認識を確認したうえで、時間内は避け昼休みの開催となった。

集会では、今日までの経過報告を受け、鈴木誠一委員長の力の入った激励の挨拶の後、山口沖縄地本執行委員長が全国港湾からの抗議文が読み上げられ、最後に港湾部会長の「頑張ろう三唱」で閉会した。



沖縄地本 清武政秀



# 「一緒に」

## 「日米共同統合実動演習キーン・ソード (KS25) に抗議する」

10月23日～11月1日に沖縄県など南西諸島を中心に、中国を意図に大規模な日米共同統合実動演習キーン・ソード (KS25) が行われている。その中には、平時から自衛隊や海保が利用できる「特定利用空港・港湾」を含む12の空港、20の港湾が利用されている。

このことは、我々、9月18・19日に開催した第17回全国港湾定期大会において満場一致で可決した「港湾を兵站基地にするな！今こそ全世界の平和と安全を」特別決議から大きく逸脱し、日本が戦争への階段をまた一歩二歩と近づきつつあることを実感するものである。そして、最大規模の日米共同統合実動演習は、カナダとオーストラリアが初めて参加する。並行して米海軍とカナダ海軍の艦船が台湾海峡を通過して中国をけん制することになっている。

今、日本は、日米軍事同盟の枠を超えて、更なる対中国の包囲網としての一翼を担い、沖縄県を対中国攻撃拠点にすると同時に、中国からの攻撃で文字通り「戦場化」を想定している。約80年前の沖縄戦での悲惨な出来事を繰り返してはならないことを訴えるものである。

また、この演習は当初災害訓練とされていたのが、軍事訓練へとなんの通知もなく一方的に変更されたことは、我々港湾労働者を取っただけでなく、国民への信頼を損なうものである。自衛隊は燃料補給訓練の為に石垣港を使用する。この事は、全国各地の民間港が同様使用される事を示唆するものであり、民間港(石垣港)が自衛隊等の補給基地に変容される恐ろしい事態である。

全国港湾及び沖縄地区港湾は、港湾労働者の安全、職域の安全確保のためにも民間港の「兵站基地化」を阻止しなければならない。

このような事態に我々、全国港湾は、特別決議で掲げたように、あらためて、「港湾労働者は、港湾が兵站基地となり戦争の犠牲者となることや協力者となることも拒否する固い決意を込め、重ねて戦争終結を呼びかける」ことを前面に掲げ、今回の日米共同統合実動演習キーン・ソード (KS25) に反対し、断固として抗議するものである。

2024年10月28日

